

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	-	-	-
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	お客様の様子	・レジ前の小物類に動きがでており買い控えの傾向が弱まっている。
		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・売上の前年割れは続いているが、以前ほどの大幅な落ち込みはなくなった。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・高速道路料金引下げや燃油サーチャージ引下げの影響で、客の旅行意欲が活発化している。特にゴールデンウィークの海外旅行取扱見込みが各方面前年に比べ120～150%で推移している。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・新規契約に対する大幅値引きが売上増加に拍車をかけた。また、買換えに関しても機種増加により好きな機種を選べる幅が広がったため、買いやすくなっている。
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・来客数は少ないものの、昨年と比較して契約件数は増えている。また、契約額も増加傾向にある。	
	変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・新入学に向けた関連商品の取扱店は例年並みであるが、他の店舗は来街者数の割には売上が伸びず、目的以外の買物をする客は少ない。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・来店しても、目的のショッピングやイベントに直行し、買い回りせずに帰る客が多い。
		百貨店（売場担当）	お客様の様子	・ギフト需要が少し動き始めたものの、業況に大きな変化はない。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・競合店の進出により、数か月前から売上が芳しくない状況が続いている。近隣企業の従業員の自宅待機の実施などもあって、来客数が減少している。しかし、以前と比べて売上の低下幅が縮小し、前月と同程度の景気の悪さである。
		自動車備品販売店（従業員）	来客数の動き	・状況的には変わっていないが、ETC助成金、高速道路料金引下げ効果で来客数は増加している。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・個人客では卒業・合格祝いの食事会があるが、最低単価のメニューが一番多い。昔のような接待ゴルフや会食がなくても、メールや携帯電話で済ますことができるため、前年秋から落ち込んでいる接待需要は全く回復しない。
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・3月に入っても1月中旬以降低迷し続けている客数の推移に変化は見られない。客単価も変化がなく横ばい状態。2月と状況は変わらない。
		通信会社（職員）	お客様の様子	・アナログテレビのデジタル化に伴い必要となる家電製品の購入動機に変化が見られず、依然として買換え・移行の様子見による停滞傾向が強い。
		通信会社（役員）	販売量の動き	・毎年3月は引越転入者や新社会人等を狙いとしたケーブルテレビ・インターネットの加入促進キャンペーンを展開しているが、今年はデジタル移行の追い風もあり、新規契約者数は前年比約5割増で推移している。
		競輪場（職員）	単価の動き	・3か月前と比べると車券の1人当たり購入金額は変わっていない。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・見込み客の動きが以前と変わらない。
	やや悪く なっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・卒業・入学・入社等のイベントにおいても新たな物品購入が極端に少なく、儉約ムードが強い。物販全般の傾向である。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・平日より休日の客足が、めっきりと減り、人通りもまばらである。客は外出せずに家で過ごす時間が多いようで、車の交通量も以前に比べて少ない。
一般小売店〔鮮魚〕（従業員）		販売量の動き	・歓送迎会なども盛り上がり欠け、売上の低迷状態が続いている。	
百貨店（売場主任）		単価の動き	・高額な生活向上商品でも、単価を意識する顧客が拡大している。以前は生活必需品にその傾向が見られたが、全体に消費の引き締め傾向が見られる。	
スーパー（店長）		単価の動き	・単価の下落が顕著になってきている。競合店も同様に値下げ販売に変更する傾向にある。結果的に売上高も減少傾向となっている。	

	スーパー（店長）	単価の動き	・客単価は、3か月前と比べるとまだ良くないが、定額給付金の給付が近づいているためか、前月との比較では良くなっている。
	スーパー（店長）	単価の動き	・来客数に変化はないが、客単価は前年に比べると100～200円程度の低下となっている。
	スーパー（総務担当）	単価の動き	・比較的堅調だった食品部門においても、3月後半から、特に買上点数の減少により客単価が前年を下回り、売上が伸びない。
	スーパー（営業担当）	単価の動き	・来客数は前年並み、1品単価の低下、買上点数の大幅な減少などで客単価は前年と比べて5～8%低下している。客は無駄な物、無駄な量を買わないようにしている。
	衣料品専門店（総括）	販売量の動き	・買上単価、買上数量共にダウンしている。
	家電量販店（店長）	お客様の様子	・即決で購入する消費者が少なくなっている。
	乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・3月は年間最大の自動車の需要月だが、受注、販売共に前年を大きく下回り、この傾向に歯止めが利かない。販売車種も低価格車が主流になっており、売上単価も低水準で推移している。サービスの売上だけは堅調であるが、全体の収益をカバーするほどには達しない。
	乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・決算月にもかかわらず、受注が伸びない。登録台数は前年比激減の見込みである。消費が喚起されないと状況は変わらない。
	乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・来客数は、前年同月の約半分に落ち込んでいる。
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・操業短縮により燃料需要を約4割も減らす工場が出てきた。
	その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	販売量の動き	・景気低迷のなか、打開策として価格を下げて販売しているにもかかわらず、買上点数は既存店で前年比0.1点減少している。
	観光型旅館（経営者）	単価の動き	・ホテルでの消費単価が前年より約5%下がっている。
	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊、レストラン、宴会全般において利用客が減少している。例年の送別会利用が規模縮小等により伸び悩んでいる。
	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・リニューアル効果により、販売量は前年に比べ増加しているものの、3か月前に比べれば減少している。
	その他レジャー施設（職員）	販売量の動き	・景気悪化の影響から前年度に比べ新規入会者数が減少している。これに伴い、売上高も減少している。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・3月は年間でも来客数、売上の比率が高い月であるが、特に今日は落ち込みが大きくなっている。
	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・今まで順調に推移していたローコスト住宅の来客数は40%近く激減した。それに比べ高級注文住宅の来客者はあまり変動していないものの、以前にも増して契約までに時間がかかり、結果として受注増につながらない。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・住宅ローンの借入金を予定より低くするケースが多く、新築住宅の規模が小さくなってきており、客の動きに活気がなくなっている。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・客は住宅購入のため動いているが、物件選定には慎重で、かつ予算は控えめの傾向が強い。
悪くなっている	一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	販売量の動き	・例年の年度末需要が全く見られない。各企業の残予算がないためか買い控えが目立つ。
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・3月はセレモニー、進学就職、人事異動などの時期であるが、ギフト分野の売上は、前年の約半分となっている。ここでも生活防衛の意識が出てきている。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・買上単価の下落、買上点数の低下などが見られ、客の財布のひもは非常に固くなっている。
	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・来客数は微増が続いているものの、客単価は低価格商品の購入が多いため、低下している。

コンビニ（経営者）	単価の動き	・決算セールを実施したが目玉商品しか売れず、来客数は増加したものの客単価が大幅に低下し売上は前年と比べて2%減少した。客の財布のひもがますます固くなっていることに加え、平日は近隣の工場の休日増加に伴う通勤客が減少している。		
コンビニ（経営者）	販売量の動き	・例年3月の売上は2月を上回るが、今年は前月比で大幅に落ち込んでいる。		
衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・例年3月は卒業などの行事があり、黒のワンピースやスーツが良く売れるが、今年はほとんど売れず、そのほか高額商品も動いていない。安い商品に動きがあるものの単品である。		
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・客の来店機会が減少し、購入商品に対する予測がしにくくなっている。		
家電量販店（店長）	販売量の動き	・来客数自体が減っていることに加え、1人当たりの買上点数も減っている。客は、必要最小限の物しか買わず、ついで買いも極端に減った。		
乗用車販売店（経営者）	単価の動き	・新車販売の落ち込みが車種によっては壊滅的であり、価格も台数も予測を超えて落ちている。中古車も高額車は売れず、長期在庫となりつつある。		
乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・経済環境が極めて悪化し、車販売台数も更に悪化の一途をたどっている。ただ、ようやく底が見えてきた。		
住関連専門店（店長）	単価の動き	・来客数は減っていないが、売上、客単価がダウンしている。高価格商品の動きも悪く、1品単価も下がっている。		
その他専門店[酒]（経営者）	来客数の動き	・年度末は人が動く時期であり、お金が必要となる時期でもある。小売業にとっては客の財布のひもがより固く感じる。		
スナック（経営者）	来客数の動き	・得意先企業の業績落ち込みの影響で、売上は前年に比べ3割減少し、今年に入って低空飛行が続いている。他の客にも節約ムードがうかがわれる。		
観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊人数は前年に比べ84%、宿泊単価は同98%、売上は同81%であり、いずれも前年を下回っている。		
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・売上が半減している。個人の格安海外旅行は件数で急増しているものの、全体では底が見えないほど悪い。		
タクシー運転手	来客数の動き	・消費者の節約志向が広がっている。駅や病院などへの送迎は家族が行っており、極力タクシーを利用しない。中心部の繁華街への人出も、平日はもちろん、週末でも最近では少なくなり、1～2時間の客待ちは普通になった。また、会社関係のタクシーチケット利用が極端に減ってきている。		
タクシー運転手	販売量の動き	・駅や空港などではビジネス客が減少し、ビジネスホテルの宿泊客も少ない。当然タクシー利用客も減少している。		
テーマパーク（職員）	来客数の動き	・全体の来客数は前年同期比30%減少し、売上でも同20%の減少となり、大変厳しい集客状況となった。個人客は前年比10～15%の減少にとどまり、やや健闘しているものの、海外からの観光客数は同40%の減少、一般企業を中心とした団体客も同30～40%の減少となっている。		
企業動向関連	良くなっている	-		
	やや良くなっている	電気機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・12月から2月まで非常に悪い状況が続いたが、3月に入り若干落ち着いた動きとなった。4月以降の受注も増えつつある。
	変わらない	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・衣料関係、車両を始めとした非衣料関係共に、1月以降低迷している。
		化学工業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・取引先の状況もなかなか厳しい。
		一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・欧州と国内の受注が少し動いてる。しかし、米国市場はまだ動いていない状況である。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者の話を見ると、まだ仕事が止まっているという話が多い。
		新聞販売店[広告]（従業員）	受注量や販売量の動き	・売上高は前年に比べ10%余り下回っている月が数か月続いている。

		司法書士	取引先の様子	・不動産売買に関連して価格面で強気だった売主が価格を下げてきたり、ほかにも養育費の減額請求等金銭面での困窮がうかがわれる事案が多い。
やや悪くなっている		食品製造業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・前年秋に業界各社で値上げが実施され、年末までは前年を上回る売上高が確保されていたが、年明け以降消費動向は一層の低価格化が顕在化し、また荷動きも鈍り始め、収益が悪化している。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注面では商談成立が遅いうえに、量的な確保が難しい状況が続く。さらには低価格商品へのシフトがあり、売上確保が苦しい。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・住宅向けは低調に推移し、さらに車・家電向けも落ち込みが見られる。
		精密機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・関連各社の荷動きの量は、各社共に2～3か月前に比べ、一段と少なくなっている模様である。
悪くなっている		税理士（所長）	受注量や販売量の動き	・大手の製造業の下請企業は厳しい状況が続いているものの、それ以外の販売関係などでは大幅な減少は見られない。
		建設業（経営者）	競争相手の様子	・元請の共同企業体の1社が自己破産した。幸い、共同企業体の子企業が単独で工事を続けることになり、親企業から当社が受け取っていた手形も、この子企業の手形に差し替えされ事なきを得たが、単独受注の会社が破たんしていたら大きな影響を受けていたところである。
		建設業（総務担当）	それ以外	・特に製造業からの見積依頼件数の減少が顕著になり、当然のことながら受注量も減少傾向が続いている。
		輸送業（配車担当）	取引先の様子	・消費が拡大しないなかで、メーカーでは在庫を抱え新たな生産ができず、物流量が減少している。
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	-	-	-
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・3か月前と比べ1回の平均求人件数が50件ほど減っている。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・人材の新規需要は皆無に等しく、また継続更新もない。優秀な労働者があふれている。
人材派遣会社（社員）		求人数の動き	・製造業の派遣社員は雇止めか中途解除に遭っており、4月以降の雇止めも聞いている。	
新聞社〔求人広告〕（担当者）		求人数の動き	・3月の求人広告は前年比6割減となった。	
悪くなっている	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・前年のこの時期には、新4年生の内定通知の報告があったが、今年はほとんどない。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告の件数は相変わらず少ない。全国的な求人誌の休刊が発表され、企業の求人意欲は低いまま新年度を迎える。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は製造業を始め運輸業、サービス業、建設業で前年に比べ半減している。一方、新規求職者数は事業主都合離職者が大幅に増加しており、有効求人倍率は低下傾向となっている。	
	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職者数が前年12月以降、前年に比べ30～50%増加している。特に、中小企業を中心に複数の事業所で人員整理等があったため、事業主都合離職者が大幅に増加している。	
	民間職業紹介機関（経営者）	周辺企業の様子	・加工機械・部品メーカーの子会社への派遣社員が一部休業していたが、年度末をもって契約終了となった。	